

会津若松市における まちなか資源の再考とにぎわい創出案

A2201302 青木 心音 A2201308 今 瑞希
 A2201311 佐藤 友香 A2201321 星 沙織

研究の背景

他の地方都市と同様に会津若松市は少子高齢化、市街地の空洞化が進行している。2011 年の震災に伴う風評被害は、地域住民の努力や大河ドラマの影響で観光客の入込み数にも改善傾向が見られるものの、地域の再生には多くの問題を抱えている。

研究の目的

地域の活力やにぎわいを創出する方法のひとつにまちなかにある資源の再考が必要と考え、今ある資源の見直しや新しい資源の掘り起こしを行うことで地域のにぎわい創出案を考えることを目的とする。

研究のプロセス

研究は図 1 のようなプロセスを進めた。

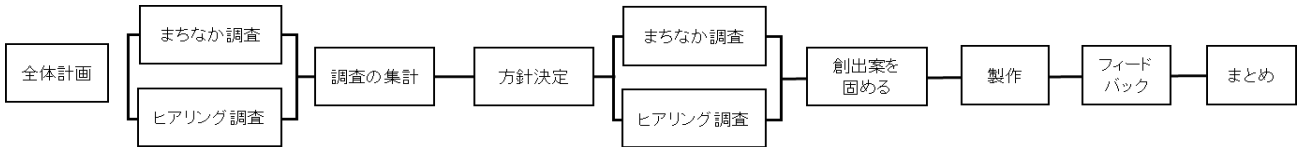


図-1 研究の進め方

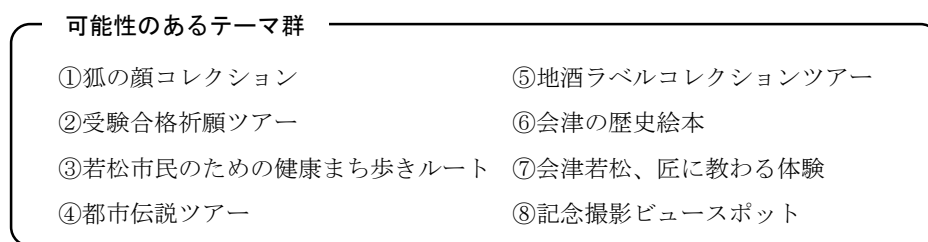
研究の結果

まちなか調査やヒアリングを行うと同時に、パンフレットや文献から、テーマに沿うような現在観光資源や町おこしのために活用されている資源、活用されていない資源をキーワードとして抽出した。1つの資源に対し資源概要や位置情報など基本的な情報の他に資源使用程度、活用内容、年齢層、ストーリー性の有無、活用可能性、活用方法の想定案などの項目を設け、それらの概要をまとめ表-1 とした。その後の調査を通して作成した活用可能性のある資源をピックアップした。ジャンルは、食べ物、伝統工芸、自然、観光地、コレクション、その他の6分野に分け、カテゴリーとして地名や歴史的建造物、風景などの 14 種類に分類した。分類したものは表-1 の通りである。この表をもとに、まちなかの賑わい創出ができるかどうか、ストーリーの展開性はあるかを検討した結果8つのテーマが発案された。その後、分類したカテゴリーの中で可能性の持てそうなテーマを①、②などの番号で分けていった。

表-1 まちなか資源と可能性のあるテーマの関係

食べ物 (32)	伝統工 (10)	自然 (8)	観光地 (208)	コレクション (13)	その (40)
食べ物(32) ⑤	文化財(4) ⑦	河川(2) ③⑧	歴史的建造物(7) ⑧	地名(52) ③⑥	伝説(4) ②④⑦
	伝統工芸(6) ⑦	動植物(4) ③⑧	社寺仏閣(144) ①②	地蔵(2) ①②④	その他(36)
		風景(2)③⑧	史跡(53) ⑥		
			墓(4) ③		

※表の()内の数字は資源数の内訳、丸数字はテーマとの関連性にもとづいた番号である。



そして更にこの8つのテーマに関して、実効性のあるテーマであるか、実現によってまちなかのにぎわいの創出はどの程度はかれるのか、テーマの中に更に加えたほうが良いアイデアや情報はあるかなどの視点から、組み合わせられるテーマのまとめと、絞り込みを行った。その結果、「会津の歴史発見ウォークラリー」、「地酒ラベルコレクションツアー」の2つのテーマが抽出されたため、これら2つのテーマでにぎわい創出案に取り組むこととした。

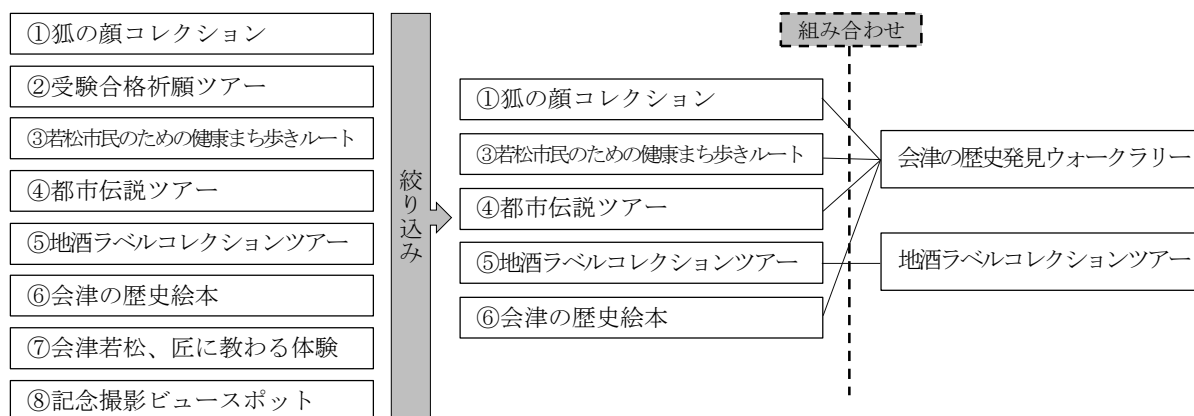


図-2 テーマの絞り込みの過程

にぎわい創出案 1 : 「酒飲帳」

1) 目的

地酒ラベルコレクションツアーとは、会津若松市内の酒蔵を巡り、お酒の試飲や購入を行うことでそのお酒のラベルのみ購入権が得られ、ラベルをコレクションするというものである。この提案をするにあたり、ツアーを補助するツールとして酒飲帳[※]の作成を行う。これらをきっかけに日本酒に興味を持ってもらい、実際に飲んで美味しさを実感してもらうことで若い世代の日本酒離れを改善する。魅力ある会津の日本酒を介して会津若松全体のにぎわい創出につなげる。

※ 酒飲帳

寺社における御朱印を押印し集印するための専用の帳面を「朱印帳」という。最近では若い女性の中でも御朱印集めが人気となっており、そういった女性は「御朱印ガール」などと呼ばれている。そこで今回、この「朱印帳」を基本とし、これをもじった「酒飲帳」を提案する。朱印帳の場合は御朱印を集めるが、酒飲帳では会津の酒蔵を巡り地酒のラベルの収集を行う。

2) 対象

日本酒離れが進む若者世代をメインターゲットとし、かつ日本酒に親しみのある世代にも使ってもらえる酒飲帳を作る。

○観光客を中心とした 20～30 代の男女

○地元住民を中心とした 20～30 代の男女

3) 場所

このツアーに協賛していただいた会津若松市内を中心とした酒蔵7件をツアーの対象とする。会津地域は東北の酒どころである。地域全体の酒蔵のつながりを生かすことで日本酒と地域をさらに盛り上げていく。

4) 成果物

酒蔵巡りをする際の注意点

会津若松市内の観光ルートを含めた酒蔵の地図

協賛酒蔵の情報(歴史、おすすめの商品、交通情報)

評価ページ(ラベル挿入欄、コメント記入欄、評価欄)



▲酒蔵情報ページ



▲評価ページ



▲御酒飲帳

にぎわい創出案2：「会津の歴史発見ウォークラリー」

1) 目的

会津若松歴史ウォークラリーを通して自分の住んでいる地域の歴史を知り、更に若松市内の歴史に興味を持つきっかけを作る。自らの住む会津若松の歴史を自分の足で歩き発見し目で見ることによってより深い学びを得ることを目的とする。

2) 内容

今回提案するウォークラリーは、江戸時代から現在までのさまざまな歴史をベースとする。その中でも特に若松市内の旧町名を中心とし、そこから派生したエピソードを交えた内容とする。旧町名は会津の歴史を反映した由来をもつものがたくさんあり、現在市内に 52 箇所の旧町名の由来が記された石碑が以前の町の場所に設置されている。この旧町名の石碑と市内の寺社仏閣を主な資源として利用する。

3) 対象

若松市内の小学6年生を主たる対象とする。エリアが広範囲のため、小学校区と関連させて区域は縮小化してウォークラリーの範囲を決定した。基本的には小学生が対象であるが大人や観光客が行っても楽しめるウォークラリーを目指す。

4) 成果物

ウォークラリーは数名のグループで行い、地図、問題、冊子を所持し回答した得点と所要時間で順位を決めるものとした。

〔地図〕

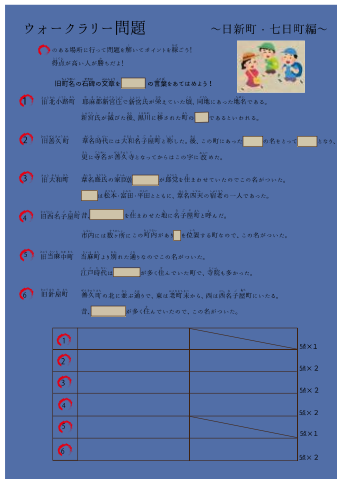
それぞれのコースの地図を作成し、その地図をたよりにチェックポイント(旧町名石碑、寺社仏閣など)を探していく。

〔問題〕

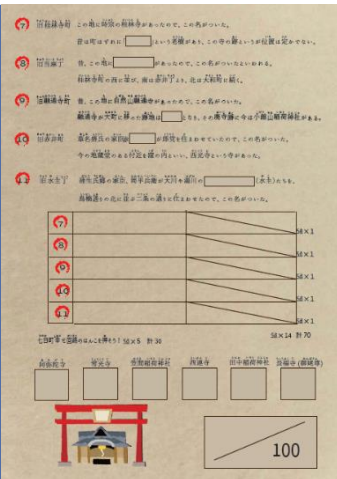
問題は、旧町名の石碑に記してある町名の由来や寺社仏閣等に関するものとした。

〔冊子〕

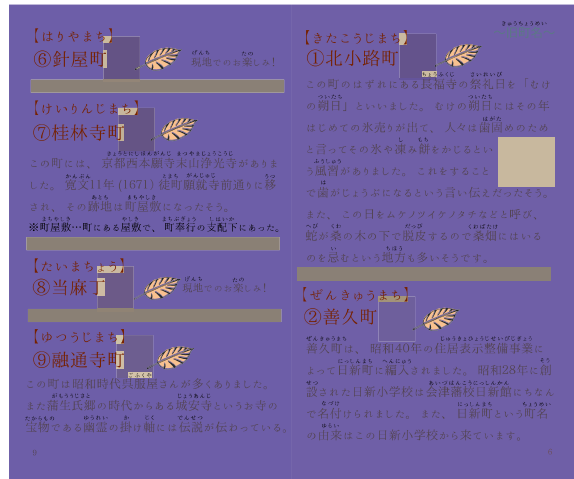
冊子は事前学習、ウォークラリー中、事後学習のすべてに使うことができる。内容は主に旧町名の由来にまつわるエピソードや、そこから派生した歴史のコラムも挿入している。また、旧町名を知る上で必要な事前知識となる会津の大まかな歴史を記載することでつながりを持たせて歴史を学んでもらう。



▲ウォークラリーの問題



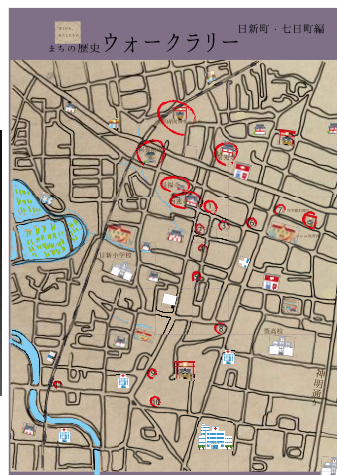
▲冊子：旧町名の説明頁



▲冊子：歴史概要の説明頁



▲冊子の表紙



▲ウォークラリー用地図



▲冊子：歴史概要の説明頁